公表版

工期設定ガイドライン
（舗装編）

令和８年７月

西日本高速道路株式会社

目　　次

		頁
第１章.	ガイドラインの利用方法	１
第２章.	舗装工事施工の流れ	２
２－１.	新設舗装工事	４
	・施工フロー	４
	・施工順序	５
２－２.	修繕舗装工事	２２
	・施工フロー	２２
	・施工順序	２３
第３章.	標準工程表	３４
３－１.	検討事項	３４
３－２.	工期の設定例	３６
第４章.	工程作成支援ツール	３７
４－１.	基本事項	３７

第１章.　ガイドラインの利用方法

１）基本事項

「工期設定ガイドライン（舗装編）（以下「ガイドライン（舗装編）」という）」は、各工種の共通事項を整理した「工期設定ガイドライン（共通編）」とは別に、舗装工事の経験、組織や担当者の考え方等に係らず標準的な工事期間が設定できるよう制定したものである。

工程作成支援ツールについては、表計算ソフト（Excel）に積算に用いる代価数量及び代価パラメータ等を入力することで、施工日数が算出可能となっていることから、全体工期設定の補助ツールとして整備している。

工期設定ガイドライン（共通編 令和８年７月）

工期設定ガイドライン（舗装編 令和８年７月）
- 施工の流れ［新設・修繕］
- 標準工程表［検討事項、工期の設定例］
- 工程作成支援ツール［Excel］

２）利用にあたっての留意点

「ガイドライン（舗装編）」の利用にあたっての留意点は以下のとおりである。

（ⅰ）ここに示す工程は、標準的なものである。

（ⅱ）雨休率（休日及び天候等による作業不能日）を適用している。

（ⅲ）一般的な施工機械を対象としている。

（ⅳ）作業時間は、特に注記のない限り実働８時間（実作業時間７時間）である。

（ⅴ）集中工事における修繕舗装工事は適用外である。

（ⅵ）標準工程表は新設舗装工事と修繕舗装工事を例示している。

新設舗装工事：土工工事、トンネル工事及び橋梁工事等で建設された路床や床版上に新たに路盤工、基層工及び表層工等を新設する舗装工事。

修繕舗装工事：既設舗装面を切削オーバーレイ工や打換工等により更新又は補修する舗装工事。

（ⅶ）積算要領の各代価の適用条件と異なる場合は、別途考慮すること。

（ⅷ）「工程作成支援ツール」に定めの無い工種であっても、全体工期に影響を与えるものについては、別途、設定すること。

（ⅸ）地域特性等による作業休止などその他の作業不能日により、現場の着手可能時期（引渡し時期等）が工期開始日と異なる場合（遅い場合）は、工区毎に着手可能時期（引渡し時期等）を設定し、全体工期への影響を考慮する。

（ⅹ）「ガイドライン（舗装編）」及び「工程作成支援ツール」は、工事発注時において、発注者が全体工程の流れを把握し、工程表を作成する際の参考資料として活用する。

第２章.　舗装工事施工の流れ

１）　本章では、新設舗装工事及び修繕舗装工事の施工の流れを示す。

施工フロー及び施工順序に記載のある工種は、標準的に新設舗装工事及び修繕舗装工事に含まれる工種を示したもので、施工フローについては、付帯的な工種は施工時期が固定されない場合もあるため、参考として記載している。

２）　施工順序に示した工種は次表のとおり。

≪新設舗装工事≫

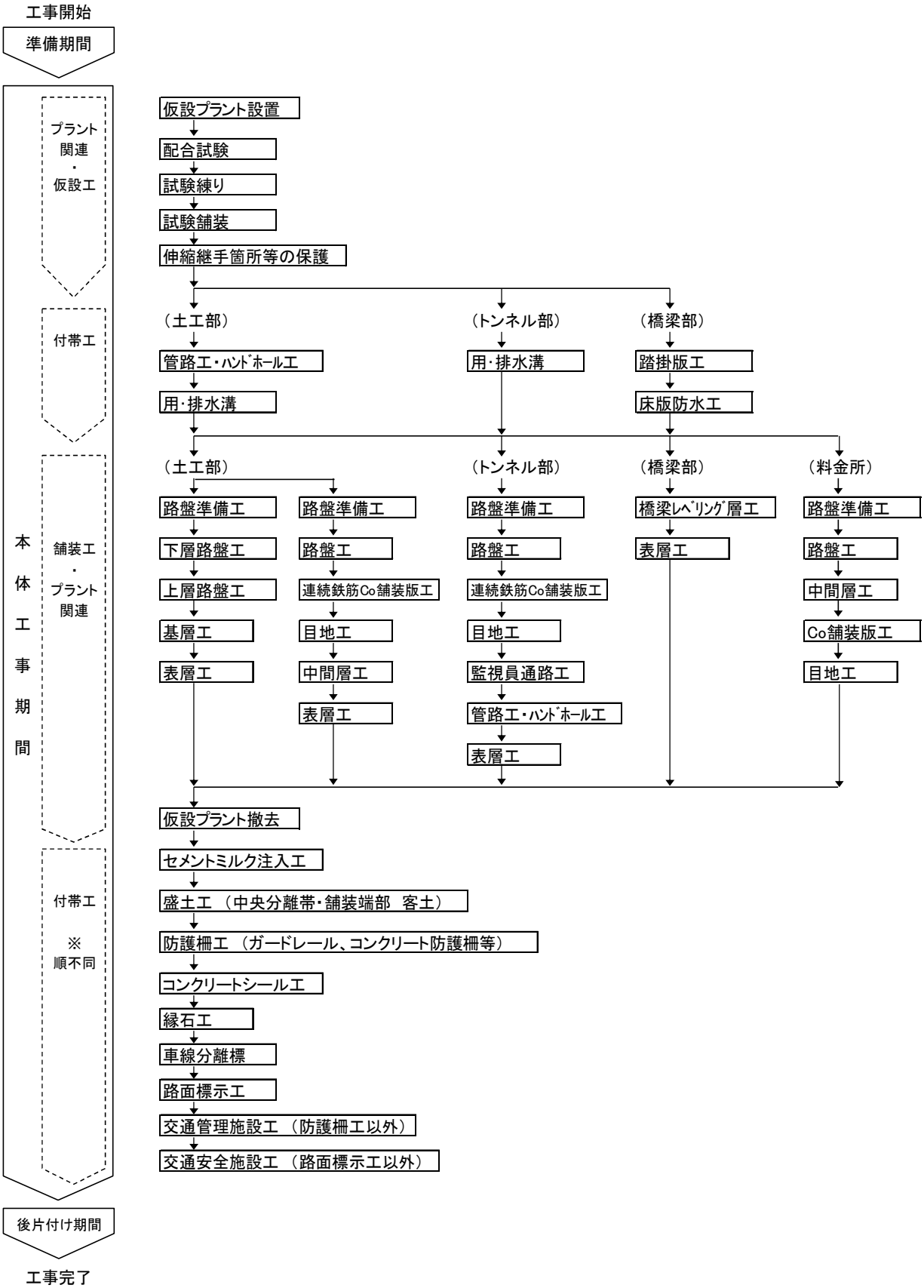
No	区分	名称	単位
1	単価項目	盛土工	m3
2	単価項目	用・排水溝	m
3	単価項目	監視員通路工	m
4	単価項目	路盤準備工	m2
5	単価項目	粒状路盤工　下層路盤	m2
6	単価項目	セメント安定処理路盤工	m2
7	単価項目	アスファルト混合物	t
8	単価項目	瀝青材散布工	ℓ
9	単価項目	セメントコンクリート舗装版工　連続鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装版	m2
10	単価項目	セメントコンクリート舗装版工　コンクリート舗装版	m2
11	単価項目	セメントコンクリート舗装版工　目地工	m
12	単価項目	防護柵工　ガードレール	m
13	単価項目	コンクリート防護柵工	m
14	単価項目	路面標示工	m
15	単価項目	管路工	m
16	単価項目	車線分離標	基
17	単価項目	縁石工	m
18	単価項目	踏掛板工	m2
19	単価項目	コンクリートシール工	m2
20	単価項目	床版防水工	m2
21	単価項目	セメントミルク注入工	m2
22	割掛項目	仮設アスファルトプラント設置・撤去	基
23	割掛項目	仮設ソイルプラント設置・撤去	基
24	割掛項目	試験舗装	式
25	割掛項目	伸縮継手箇所等の保護	箇所

≪修繕舗装工事≫

No	区分	名称	単位
1	単価項目	オーバーレイ工	m2
2	単価項目	切削オーバーレイ工	m2
3	単価項目	打換工	m2
4	単価項目	レベリング工	t
5	単価項目	路面標示工	m
6	単価項目	路面標示工　突起型路面標示	m
7	単価項目	凹型注意喚起舗装工	m
8	単価項目	樹脂系薄層舗装工	m2
9	単価項目	粗面処理工	m2
10	単価項目	クラック補修工	m
11	単価項目	床版防水工	m2
12	単価項目	床版補修工	m2
13	単価項目	床版排水処理工	箇所
14	単価項目	橋梁排水ます孔開け工	孔
15	単価項目	縁石工	m
16	単価項目	セメントミルク注入工	m2
17	単価項目	施設設備工　ループコイル設置工	箇所
18	割掛項目	事前調査	式
19	割掛項目	試験舗装	式
20	割掛項目	残アスファルト合材等の取除き	m2
21	割掛項目	仮路面標示工	m

２－１．　新設舗装工事

１）　施工フロー



仮設アスファルトプラント

基礎工（場内整地込み）
↓
機械搬入
↓
仮設工
↓
骨材仕切、上屋設置
↓
電源、配線撤去
↓
キャリブレーション
↓
解体工
↓
骨材仕切、上屋撤去
↓
機械搬出
↓
基礎撤去
↓
撤去後の整地

高圧電源引込み（電力会社）
↓
プラント内の電気配線工

施工順序

機械搬入

仮設工

骨材仕切、上屋設置

仮設完了（電気配線など）

仮設ソイルプラント

基礎工（場内整地込み）
↓
機械搬入
↓
仮設工
↓
骨材仕切塀設置
↓
電源、配線撤去
↓
キャリブレーション
↓
解体工
↓
骨材仕切、上屋撤去
↓
機械搬出
↓
基礎撤去
↓
撤去後の整地

施工順序

機械搬入

仮設工

仮設完了

機械搬出

（参考）　仮設プラント　全景写真

試験舗装

計画書作成
↓
試験舗装・品質管理試験
↓
報告書作成

施 工 順 序

試験舗装（敷均し）

試験舗装（１次転圧）

試験舗装（２次転圧）

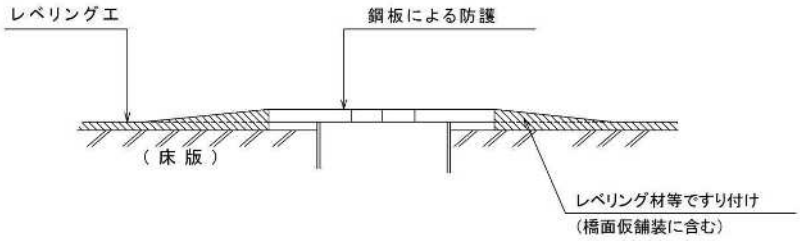
品質管理試験

伸縮継手箇所等の保護

鋼板搬入
↓
鋼板設置

施工順序

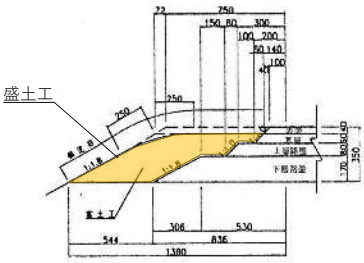
鋼板設置



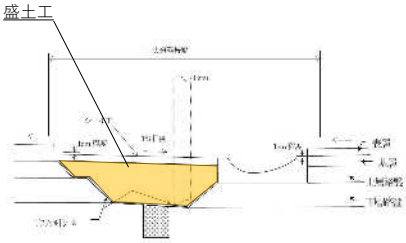
本線内を工事用道路として利用する場合で、橋梁の伸縮装置箇所の段差是正及び伸縮装置の損傷を防ぐ目的で鋼板を設置するもの。

盛土工
（中央分離帯・舗装端部の客土）

敷均し
↓
締固め



図－舗装端部



図－中央分離帯部

施工順序

【舗装端部】

敷均し

⇩

締固め

【中央分離帯部】

敷均し

⇩

締固め

用・排水溝
①プレキャスト製品

資機材搬入
↓
床掘・整正
↓
基礎材敷均し・締固め
↓
プレキャスト製品の据付
↓
目地材設置
↓
埋戻し
↓
蓋設置
↓
資機材搬出

施工順序

床掘

基礎材締固め

プレキャスト製品（U字溝）の据付

埋戻し

基礎材は、地盤が不良の場合に使用する。

用・排水溝
②現場打ち水路

資機材搬入
↓
床掘・整正
↓
基礎材敷均し・締固め
↓
鉄筋加工・組立て
↓
型枠製作・組立て
↓
目地材設置
↓
コンクリート打設・養生
↓
型枠撤去
↓
埋戻し
↓
蓋設置
↓
資機材搬出

施工順序

鉄筋組立て

型枠組立て

コンクリート打設

用排水溝完成

用・排水溝
③スリップフォーム（円形水路）

資機材搬入
↓
床掘・整正
↓
端部型枠設置（起点）
↓
センサライン設置
↓
鉄筋工・目地金物設置
↓
コンクリート打設
↓
養生
↓
センサライン撤去
↓
目地材設置
↓
端部型枠撤去（終点）
↓
資機材

施工順序

床掘

鉄筋組立

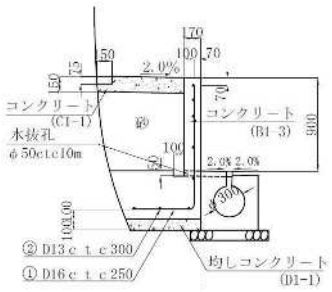
コンクリート打設（スリップフォーム）

養生材散布

成型機は、コンクリートを供給する搬送装置、鋼製型枠及び締固め装置から構成される。

監視員通路工
（監視員通路）

床掘・整正
↓
均しコンクリート打設・養生
↓
鉄筋組立て・型枠設置
↓
目路材設置
↓
直壁部コンクリート打設・養生
↓
管路工（※）
↓
中詰土充填・締固め
↓
目路材設置
↓
コンクリートシール打設・養生



図－監視員通路

施工順序

均しコンクリート打設

直壁部コンクリート施工

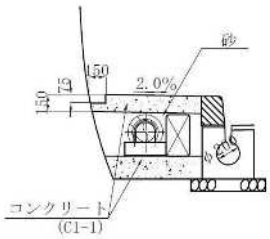
中詰土充填・締固め

コンクリートシール打設

（※）監視員通路内に管路を設置する場合、点線部のタイミングで管路工を施工
管路工の施工は施工順序「管路工①トンネル監視員通路部」を参照

監視員通路工
（監査廊）

床掘・整正
↓
均しコンクリート打設・養生
↓
管路工（※）
↓
コンクリート縁石設置
↓
中詰土充填・締固め
↓
コンクリートシール打設
↓
養生

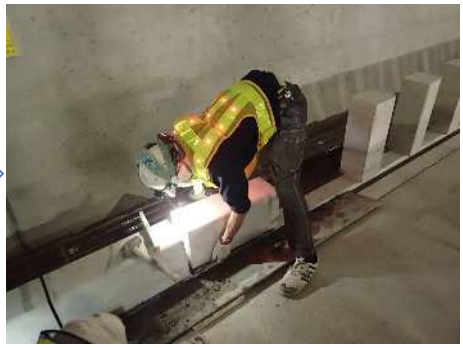


図－監査廊

施工順序

均しコンクリート打設

コンクリート縁石設置



中詰土充填・締固め

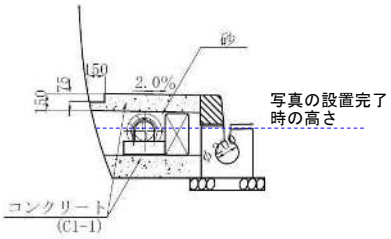
コンクリートシール打設

（※）監査廊内に管路を設置する場合、点線部のタイミングで管路工を施工
管路工の施工は施工順序「管路工①トンネル監視員通路部」を参照

管路工
①トンネル監視員通路工部

ベースコンクリート打設（※）
↓
管路敷設
↓
保護砂投入・締固め（※）
↓
管路設置完了
↓
（参考）
ハンドホール設置
↓
施設工事に引渡し

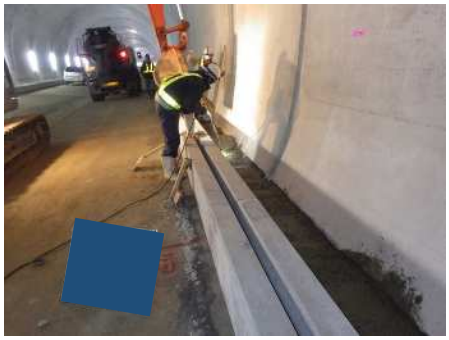
（参考）
管路工は、ハンドホール等含め完成後、
施設工事に引渡しを行う必要がある。



図－監査廊

施工順序

ベースコンクリート打設



管路敷設

保護砂投入

設置完了

（※）「ベースコンクリート打設」及び「保護砂投入・締固め」作業は、トンネル監視員通路工で実施する。

管路工
ハンドホール工（監視員通路工部）

管路敷設（※）
↓
型枠設置
↓
アングル設置
↓
コンクリート打設・養生
↓
蓋設置
↓
（参考）
施設工事に引渡し

（参考）
ハンドホール工は管路工等含め完成後、
施設工事に引渡しを行う必要がある。

施工順序

型枠設置

コンクリート打設

脱型枠後

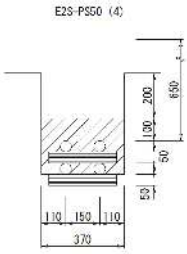
蓋設置

（※）「管路敷設」作業は、管路工で実施する。

管路工
②土工部

（参考）
ハンドホール設置
↓
床掘
↓
枕木設置
↓
管路敷設
↓
保護砂埋戻し・締固め
↓
埋設標設置
↓
管路工設置完了
↓
（参考）
施設工事に引渡し

（参考）
管路工は、ハンドホール等含め完成後、
施設工事に引渡しを行う必要がある。



図－土工部管路工

施工順序

床掘

枕木設置

管路敷設

保護砂埋戻・締固め

管路工
ハンドホール工（土工部）

床掘
↓
基礎材敷均し・締固め
↓
ハンドホール据付
↓
管路接続
↓
接続部コンクリート打設・養生
↓
埋戻し
↓
蓋設置
↓
（参考）
施設工事に引渡し

（参考）
ハンドホール工は管路工等含め完成後、
施設工事に引渡しを行う必要がある。

施工順序

床掘

基礎材締固め

ハンドホール据付

管路接続

踏掛版工

床掘・整正
↓
目地板設置
↓
型枠設置
↓
鉄筋工
↓
コンクリート打設
↓
養生
↓
型枠撤去

施工順序

床掘・整正

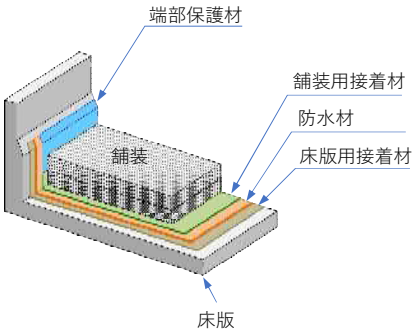
目地板設置

型枠設置・鉄筋工

コンクリート打設

床版防水工（グレードⅡ）

下地処理
↓
床版用接着材塗布
↓
防水材施工
↓
舗装用接着材塗布
↓
端部保護材塗布
↓
養生



図－床版防水工断面図

施工順序

下地処理

床版用接着材塗布

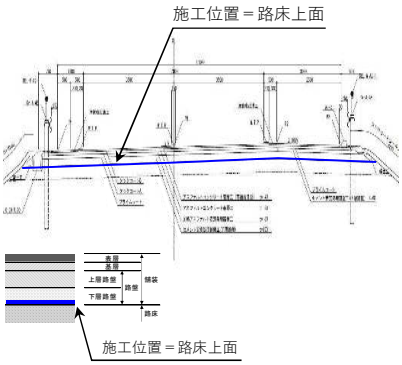
防水材施工

舗装用接着材塗布

各層毎に養生が必要。製品によって層数が異なる場合がある。

路盤準備工

かき起し
↓
締固め
↓
整形



図－標準横断図

施工順序

かき起こし

敷均し

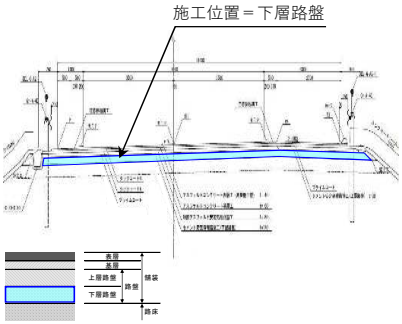
締固め（１次転圧）

締固め（２次転圧）

既設路床面のかき起こしは、モーターグレーダーにより施工。

粒状路盤工
（下層路盤）

路盤材搬入
↓
敷均し
↓
締固め
↓
（瀝青材散布工）



図－標準横断図

施 工 順 序

敷均し

締固め（１次転圧）

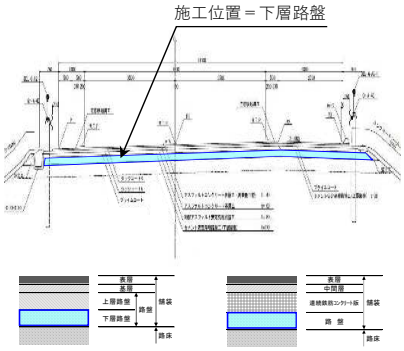
締固め（２次転圧）

瀝青材散布工

駐車場部等の下層路盤で施工。

セメント安定処理路盤工
（下層路盤）
（ｾﾒﾝﾄｺﾝｸﾘｰﾄ舗装路盤）

路盤材搬入
↓
敷均し
↓
締固め
↓
養生（瀝青材散布工）



図－標準横断図

施 工 順 序

路盤材搬入

敷均し

締固め（１次転圧）

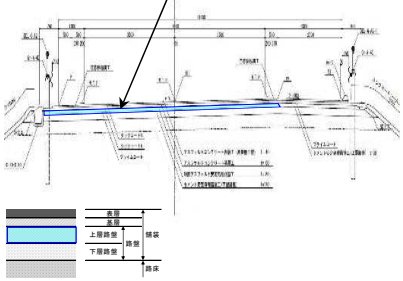
締固め （２次転圧）

下層路盤やコンクリート舗装版の路盤として施工。

アスファルト混合物
加熱ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理路盤工
（上層路盤）

（瀝青材散布工）
↓
路盤材搬入
↓
敷均し
↓
締固め

施工位置＝上層路盤



図－標準横断図

施 工 順 序

瀝青材散布

路盤材敷均し

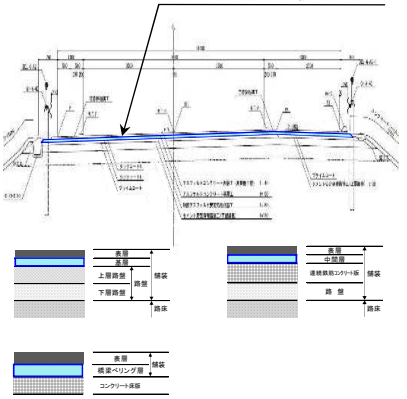
締固め（１次転圧）

締固め（２次転圧）

アスファルト混合物
基層工
中間層工
橋梁レベリング層工

（瀝青材散布工）
↓
アスファルト混合物搬入
↓
アスファルト混合物敷均し
↓
アスファルト混合物締固め

施工位置
基層・中間層・橋梁ﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ層



図－標準横断図

施 工 順 序

瀝青材散布工

アスファルト混合物敷均し

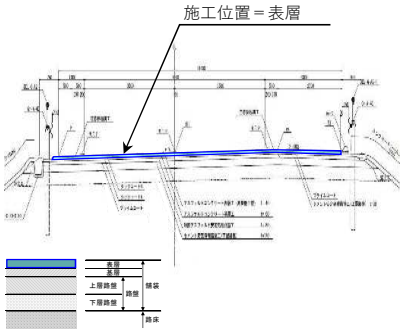
締固め（１次・２次転圧）

締固め（仕上げ転圧）

基層は土工部アスファルト舗装の場合、中間層はコンポジット舗装の場合、橋梁レベリング層は橋梁部の場合に表層の下層に施工。

アスファルト混合物
表層工

（瀝青材散布工）
↓
アスファルト混合物搬入
↓
アスファルト混合物敷均し
↓
アスファルト混合物締固め



図－標準横断図

施工順序

瀝青材散布工

アスファルト混合物敷均し

締固め（１次・２次転圧）

締固め（仕上げ転圧）

セメントコンクリート舗装版工
（連続鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装版）

端部型枠設置（起点）
↓
センサライン設置
↓
鉄筋工・目地金物設置
↓
コンクリート打設
↓
仕上げ・養生
↓
センサライン撤去
↓
目地工
↓
端部型枠撤去（終点）

図－横断図（略図）

施工順序

鉄筋設置状況

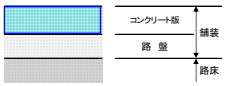
設置完了

コンクリート打設

養生

セメントコンクリート舗装版工
（コンクリート舗装版）

路盤清掃
↓
型枠設置
↓
鉄網・補強鉄筋設置
↓
コンクリート打設
↓
締固め
↓
仕上げ・表面処理
↓
養生
↓
型枠脱型
↓
目地工



図－横断図（略図）

施 工 順 序

鉄網・補強鉄筋配置

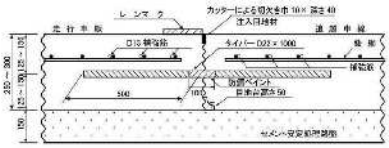
コンクリート打設

仕上げ・表面処理

養生

セメントコンクリート舗装版工
目地工（縦目地）

タイバー等設置
↓
コンクリート打設（※）
↓
目地部切削
↓
清掃
↓
目地材注入



図－横断図

施 工 順 序

タイバー設置

１車線分打設完了

目地部切削

目地材注入

（※）「コンクリート打設」作業は、連続鉄筋コンクリート舗装版又はコンクリート舗装版で実施。

セメントミルク注入工

マスキング設置
↓
セメントミルクの混合・注入
↓
セメントミルクの振動・締固め
↓
表面処理
↓
養生
↓
マスキング撤去

施工順序

セメントミルク混合

セメントミルク注入

セメントミルク振動・締固め

表面処理

コンクリートシール工

基面整形
↓
型枠・目地板設置
↓
コンクリート打設
↓
表面仕上げ・養生
↓
型枠撤去

施工順序

基面整形

目地板設置

コンクリート打設

表面仕上げ

縁石工
（アスファルト縁石）

乳剤散布（タックコート）
↓
形成

施工順序

乳剤散布（タックコート）

形成

防護柵工
（ガードレール）

削孔（※）
↓
支柱建込
↓
ブラケット取付
↓
ビーム取付

（※）
舗装部、コンクリートシール部に
施工する場合に削孔が必要

施工順序

支柱建込

ブラケット取付

ビーム取付

コンクリート防護柵工
（セットフォーム）

床掘
↓
基礎部鉄筋工
↓
型枠設置
↓
基礎コンクリート打設
↓
型枠撤去
↓
鉄筋工
↓
型枠工
↓
コンクリート打設
↓
養生
↓
型枠脱型
↓
目地材注入

施工順序

基礎コンクリート打設

鉄筋工・型枠工

コンクリート打設

目地材注入

コンクリート防護柵工
（スリップフォーム）

床掘
↓
基礎部鉄筋工
↓
型枠設置
↓
基礎コンクリート打設
↓
型枠撤去
↓
端部型枠設置（起点）
↓
センサライン設置
↓
鉄筋工
↓
コンクリート打設
↓
養生
↓
センサライン撤去
↓
目地材注入
↓
端部型枠撤去（終点）

施工順序

基礎コンクリート打設

鉄筋工

コンクリート打設

養生

成型機は、コンクリートを供給する搬送装置、鋼製型枠及び締固め装置から構成される。

車線分離標

設置場所位置決め
↓
削孔
↓
接着剤計量・攪拌
↓
孔内清掃
↓
接着剤流込み
↓
硬化・養生
↓
取付

施工順序

削孔

接着剤流込み

取付

路面標示工

下書き作図
↓
路面標示材塗布
↓
養生

施工順序

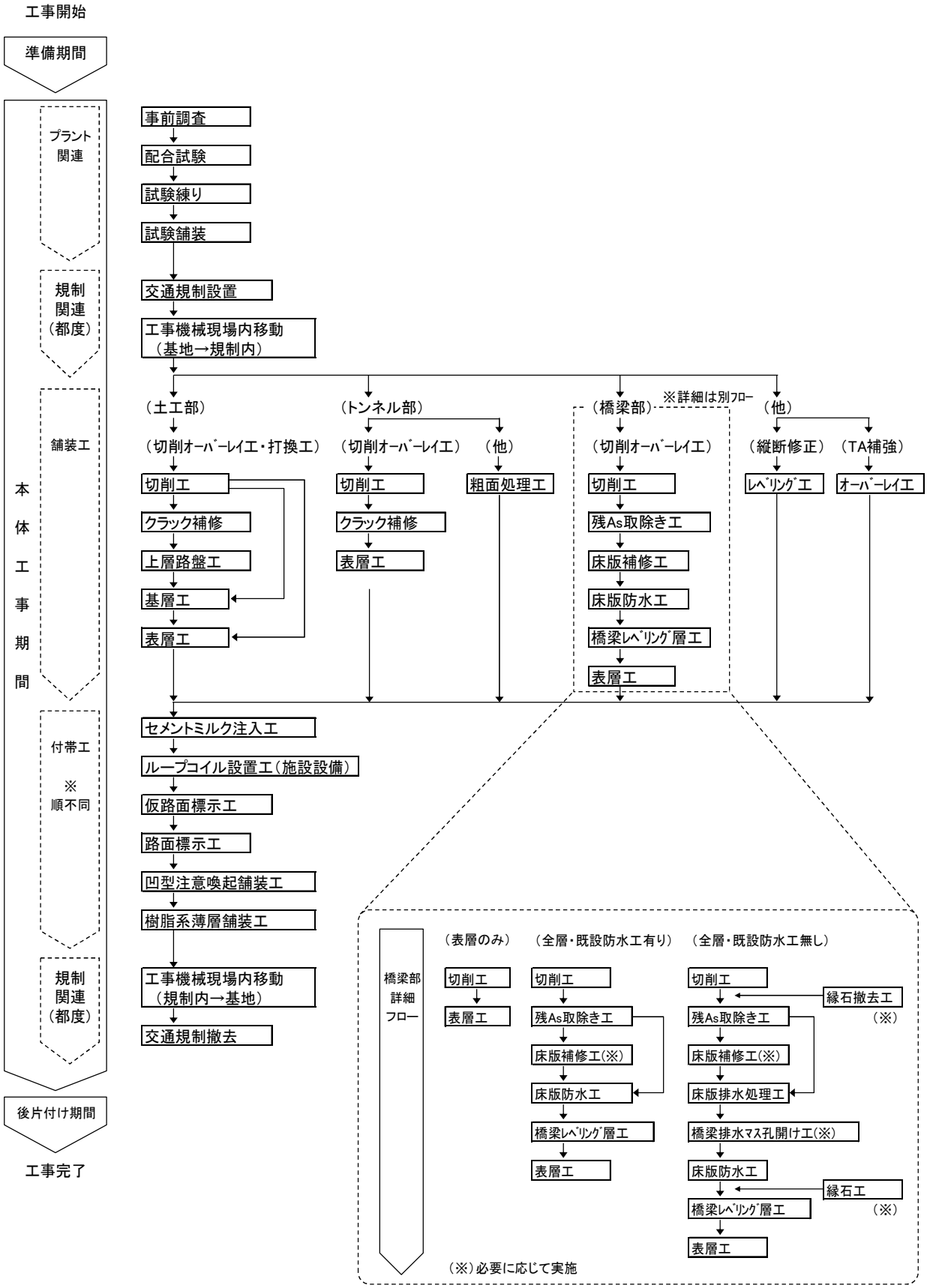
下書き作図

路面標示材塗布

写真は路面標示工標準型の溶融型（手動式）

２－２．　修繕舗装工事

１）施工フロー



事前調査

【事前コア採取】

削孔作業
↓
コア採取
↓
孔復旧
↓
報告書作成

【開削調査】

既設舗装剥取り
↓
下層調査
↓
舗装復旧
↓
報告書作成

施工順序

【事前コア採取】

削孔作業

コア採取

【開削調査】

既設舗装剥取り

下層調査

既設舗装の各層の厚さ、ひび割れ状況、層間のはく離状況等を確認。

試験舗装

計画書作成
↓
試験舗装・品質管理試験
↓
報告書作成

施工順序

アスファルト混合物敷均し

アスファルト混合物締固め（一次転圧）

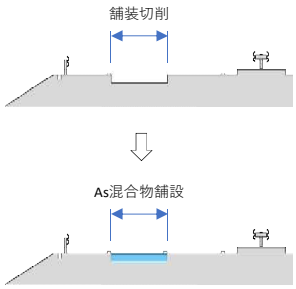
アスファルト混合物締固め（二次転圧）

品質管理試験

本施工に先駆け、本施工に使用する機械と人員構成で、試験舗装を実施し、各種施工条件を決定するもの。

切削オーバーレイエ

切削作業
↓
廃材処理・清掃等
↓
瀝青材散布工
↓
アスファルト混合物敷均し
↓
締固め（１次転圧）
↓
締固め（２次転圧）



図－横断図（略図）

施工順序

切削作業

瀝青材散布

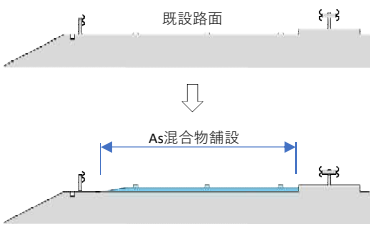
アスファルト混合物敷均し

アスファルト混合物締固め

切削オーバーレイエは、既設アスファルト混合物を切削機により剥ぎ取った後に、アスファルト混合物で舗装路面の性能を回復する工法。

オーバーレイエ

清掃
↓
瀝青材散布工
↓
アスファルト混合物敷均し
↓
アスファルト混合物締固め



図－横断図（略図）

注）路面を嵩上げする為、防護柵等についても、嵩上げを行う必要が生じる。

施工順序

アスファルト混合物敷均し

締固め（１次転圧）

締固め（２次転圧）

オーバーレイエは、既設舗装面にアスファルト混合物を舗設するもので、構造的な舗装厚さ不足に対応する工法。

レベリング工

清掃
↓
（瀝青材散布工）
↓
アスファルト混合物敷均し
↓
アスファルト混合物締固め

補足１）

レベリング工（ｔ）は、舗装厚（切削深）が、一定とならない場合（縦断修正、橋梁床版・コンクリート舗装版上面の舗装等）の舗設を「ｔ」で数量検測するもの。

補足２）

レベリング工には、道路の縦断方向に生じた不等沈下などへの修復としてアスファルト混合物を舗設するものと、橋梁床版上に橋梁レベリング層を舗設するものがある。

施工順序

アスファルト混合物敷均し

締固め（１次転圧）

締固め（２次転圧）

施工写真は橋梁レベリング層の施工状況を示す。

打換工

既設舗装の切断
（コンクリートカッター）
↓
既設舗装の剥取り
（人力・バックホウ等）
↓
廃材処理・清掃等
↓
瀝青材散布工
↓
アスファルト混合物敷均し
↓
アスファルト混合物締固め

施工順序

既設舗装の切断

既設舗装の剥取り

瀝青材散布工

敷均し・締固め

アスファルト舗装の変状が甚だしく、他補修工法では良好な路面を保持することが困難な場合に採用される工法。

クラック補修工

ひび割れ部の清掃
↓
補修材の注入・貼付け
↓
清掃

施工順序

【瀝青材の注入】

注入作業

⇩

注入施工後

【シート材の貼付け】

施工前（ひび割れ状況）

⇩

シート貼付け後

粗面処理工

研掃（ショットブラスト）
↓
品質管理試験

施工順序

研掃作業

⇩

品質管理試験

粗面処理工は、コンクリート舗装路面のすべり抵抗性（すべり摩擦係数）を回復する工法。

残アスファルト合材等の取除き

機械による取除き
↓
人力による取除き（細部）
↓
運搬・処分

施工順序

機械による取除き

人力による取除き

取り除いた廃材に既設防水工が混在している場合は、別途、廃材処理を考慮。

床版補修工

床版コンクリートはつり（ウォータージェット）
↓
廃材処理・清掃
↓
断面修復（コンクリート打設）
↓
養生

施工順序

床版コンクリートはつり（ウォータジェット）

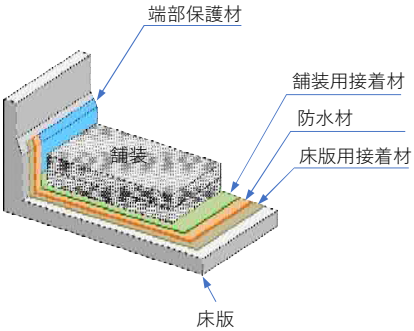
断面修復（コンクリート打設）

養生

橋梁部において、既設舗装及び防水工の除去後、床版上面に著しい変状が確認された場合に、損傷部のコンクリート除去及び断面修復を行うもの。

床版防水工
（グレードⅡ）

下地処理
↓
プライマー塗布
↓
防水材施工
↓
舗装接着材塗布
↓
端部保護材塗布



図－床版防水工断面図

施工順序

下地処理

防水材施工

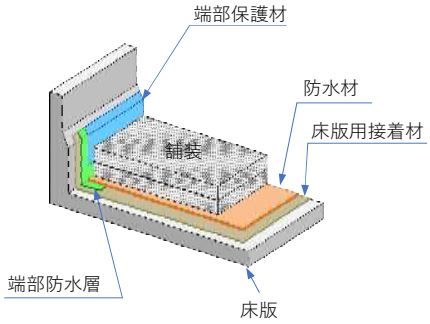
舗装接着材塗布

端部保護材塗布

写真は、床版防水工（グレードⅡ）塗膜系防水の施工状況を示す。

床版防水工
（グレードⅠ）

下地処理
↓
プライマー塗布
↓
防水材施工
↓
端部保護材塗布



図－床版防水工断面図

施工順序

下地処理

プライマー塗布

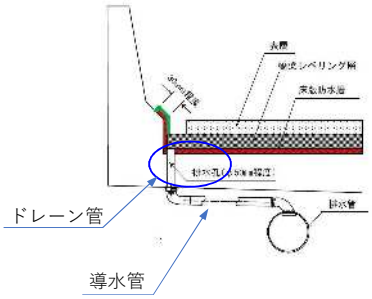
防水材施工

端部保護材塗布

写真は、床版防水工（グレードⅠ）シート系防水の施工状況を示す。

床版排水処理工

コア削孔
↓
ドレーン設置
↓
樹脂注入
↓
養生
↓
フィルター設置
↓
床版下面導水処理



図－床版断面図

施工順序

コア削孔

ドレーン設置

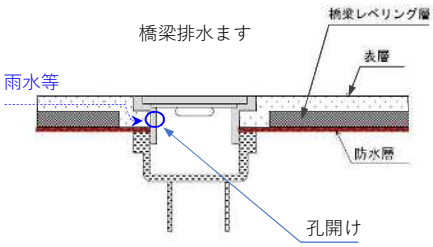
樹脂注入・ドレーン設置完了

床版下面導水処理

床版防水工上面に滞水した雨水等を排水する為の設備。

橋梁排水ます孔開け工

舗装版の撤去
↓
排水ますの側面に削孔



図－橋梁排水ます

施工順序

排水ますの側面に削孔

削孔完了

アスファルト表層を密粒から高機能Ⅰ型に変更する場合に、既設橋梁排水ます側面に排水用の孔を開けるもの。

縁石工

【縁石撤去】

縁石取壊し
↓
取壊し発生材積込
↓
運搬・処分

【アスファルト縁石工】

乳剤散布
↓
アスカーブ施工

施工順序

【縁石撤去】

縁石取壊し

発生材積込

【アスファルト縁石工】

乳剤散布

アスカーブ施工

橋梁地覆部に埋設物（電線・通信線等）がある場合は、縁石撤去にあたり事前に探査等で埋設物の位置を確認する必要がある。

セメントミルク注入工

マスキング設置
↓
セメントミルクの混合・注入
↓
セメントミルクの振動・締固め
↓
表面処理
↓
養生
↓
マスキング撤去

施工順序

マスキング設置

セメントミルクの混合

セメントミルクの注入

セメントミルクの振動・締固め

路面標示工

【外側線・中央破線】

清掃
↓
スミ出し
↓
路面標示施工

【ゼブラ等・矢印・記号・文字】

清掃
↓
作図・マスキング
↓
路面標示施工

施工順序

【外側線・中央破線】

スミ出し

路面標示施工

【ｾﾞﾌﾞﾗ等・矢印・記号・文字】

作図

路面標示施工

外側線・中央破線の施工は、使用する材料種別によって、車載式及び手動式での施工方法がある。

仮路面標示工

作図
↓
仮路面標示施工

施工順序

仮路面標示施工

舗装補修後の規制解放にあたり、一時的な路面標示として施工。

路面標示工
突起型路面標示

スミ出し
↓
リブ施工
↓
路面標示（ライン）施工

施工順序

リブのみ施工

（リブ部拡大写真）

路面標示（ライン）施工

突起型路面標示の施工は、路面標示（ライン）の材料種別により、リブとラインを別々に施工する場合と一体で同時に施工する場合がある。

凹型注意喚起舗装工

【転圧型】

鉄輪に型枠設置
↓
（表層舗設）
↓
表層転圧（凹み部整形）

【切削型】

（表層舗設）
↓
作図・養生
↓
凹み部切削
↓
清掃

施工順序

【転圧型】

鉄輪に型枠設置

表層転圧（凹み部整形）

【切削型】

凹み部切削

清掃

突起型路面標示は除雪作業により早期に消失する恐れがあることから、そのような地域においては凹型注意喚起舗装工等の方法を検討する。

樹脂系薄層舗装工

路面清掃
↓
マスキング設置
↓
プライマー塗布
↓
マスキング設置
↓
樹脂の混合・散布
↓
骨材の散布・回収
↓
マスキングの撤去・養生
↓
マスキング設置
↓
トップコート塗布
↓
マスキングの撤去・養生

施工順序

プライマー塗布

樹脂塗布

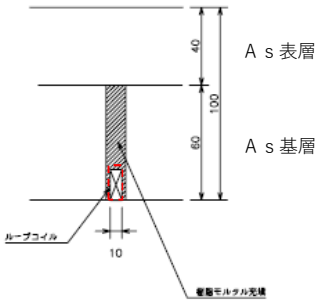
骨材の散布

トップコート塗布

ループコイル設置工

基層舗設（※）
↓
基層切断（カッター作業）
↓
切断溝の清掃
↓
ループコイル埋設
↓
配線接続
↓
樹脂モルタル充填・養生
↓
表層舗設（※）

（※）
基層及び表層の切削オーバーレイ工施工後に改めて、表層上からループコイル設置を実施する場合もある。



図－ループコイル配置断面

施工順序

基層切断

ループコイル埋設

配線接続

設置完了

一部の施設設備（計測機器）については、舗装内に埋設されている為、舗装補修を実施する際には必ず、施設設備の有無を確認する必要がある。

第３章.　標準工程表

標準工程表は、工事全体の工程（全体工程表）を補足するためのものであり、工事発注計画の立案、現場技術者の工程管理、受注者から提出された施工計画書及び全体工程表の照査における参考資料とするものである。

第４章で記載する「工程作成支援ツール」は、積算要領から積み上げた日当り標準施工量及び施工数量から施工日数を算出し、標準工程表を作成するものである。

３－１．検討事項

適切な全体工程表を作成するためには、現地条件、作業時間帯、近接工区との調整、施工順序等を検討することが必要であり、考慮すべき検討事項は以下のとおり。

１）新設舗装工事

１）新設舗装工事

（１）　工事完成時期（供用開始時期）の設定

新設の舗装工事は高速道路の供用開始までに工事を完成させる必要があることから、供用開始時期が舗装工事の全体工程に大きく影響を与える。よって、舗装工事の全体工程作成に際しては、機構との協定を参考に高速道路の供用開始時期を事前に設定する必要がある。なお工事完成時期を設定する際には、以下の点に留意すること。

① 供用開始時期までに工事が完成していること。

② 舗装工事の完成時期は、工事のしゅん功検査、国交省の完了検査、機構への引渡し検査が必要となるため、これらの検査日程を考慮する必要がある。

③ 工事完了から供用開始までの間の維持管理（予期せぬ事象で損傷した場合の復旧工事等）を舗装工事で対応する場合は全体工程に考慮する必要がある。

④ 供用開始に影響しない工種（本線外作業）については、供用開始後に完成させることも可能であるため、各工種の完成時期を整理したうえで全体工程を計画する必要がある。

（２）　工区、構造物等の着手可能（引渡し）時期の設定

舗装工事の発注段階においては土工、トンネル及び橋梁等が施工中であることが多く、これらの工事が完成し、引渡しを受けなければ舗装工事に着手することができない。よって、工区や構造物毎に着手可能（引渡し）時期を設定すること。

なお、舗装工事の着手可能時期の設定にあっては、以下の点に留意すること。

① 引渡しを受ける工区や構造物等が、高速道路の供用開始に影響するか否かを確認し、影響する場合は引渡し時期に大幅な変更が生じないよう、関係者で協議、調整を行ったうえで、舗装工事の着手可能時期を決定する。

② 工区や構造物等の引渡しは、細分化せず、極力一括して引渡しが受けられるよう、関係する工事の担当社員及び受注者と調整する。

（３）　上記以外の検討事項

上記（１）～（３）以外で、全体工程への影響の可能性がある検討事項は次のとおり。

① 仮設プラントを使用する場合、プラント設置場所の整備時期と整備方法、並びに工事用仮設電力の引込み等（引込時期、ルート等）に関する電力会社との協議。

② 定置プラントを使用する場合、進入路部分の整備時期。

③ 構造物の引渡しを受ける他工事（土工、トンネル、橋梁等）との工程調整。

④ 同時期に輻輳作業となる他工事（施設、造園、標識、遮音壁等）との工程調整。

⑤ 場外の仮設道路、仮設水路等の復旧等の方法。（管理者協議）

⑥ 既設の高速道路との接続箇所の整備時期、整備方法及び供用開始時の切替方法。

２）修繕舗装工事

（１）　補修工法の選定

既設舗装の補修にあたっては、点検要領や調査要領に基づき、変状箇所の状態や原因を把握するとともに、損傷や劣化程度を評価することで補修要否、工法（切削オーバーレイ工、打換工、オーバーレイ工等）を判断する。

（２）　上記以外の検討事項

上記（１）～（４）以外で、全体工程への影響の可能性がある検討事項は次のとおり。

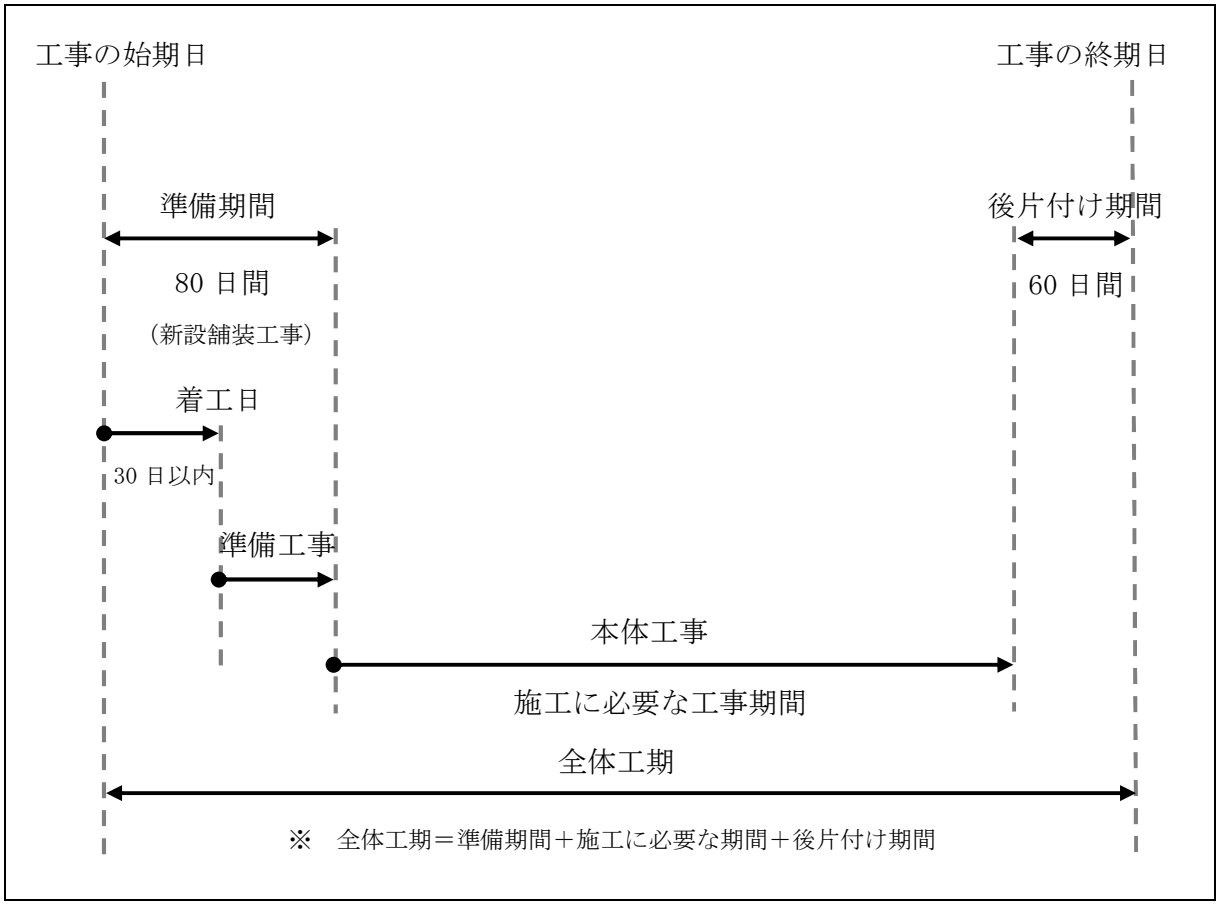
① 規制条件（規制時間、規制延長、規制方法、夜間通行止めや集中工事等）の整理

② 交通規制が隣接する工事との規制時期、時間、相乗りの可否等を整理

３－２．　工期の設定例

１）工事の全体工期の構成

工事の全体工期の基本的な構成は次のとおり。



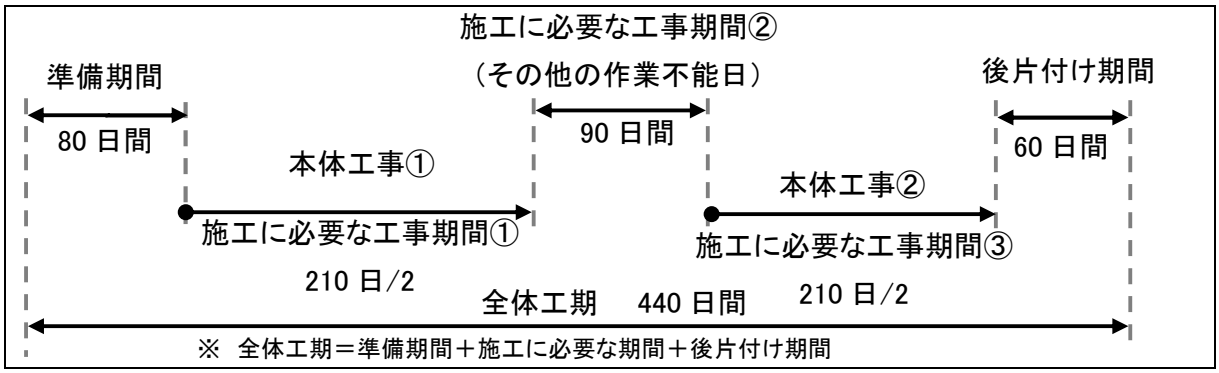
上記、設定例において、「準備期間」と「後片付け期間」は『工期設定ガイドライン（共通編）』より、それぞれ 80 日間（新設舗装工事の場合）と 60 日間とする。

本体工事の「施工に必要な工事期間」は工事毎に施工対象量や工種によって算出される日数となる。

なお、本体工事期間中に冬期休止期間など「その他の作業不能日」がある場合は、その期間も考慮の上、全体工期を設定する。

（例）①　施工に必要な工事期間　・・・・・・・・　210 日間　（105 日+90 日+105 日）

②　全体工期として必要な期間　・・・・・　440 日間　（80 日+300 日+60 日）



第４章.　工程作成支援ツール

４－１.　基本事項

工程作成支援ツールとは、これまでガイドライン（舗装編）に示す考えを元に、標準工程表を作成するための補助ツールであり、積算要領や数量算出要領に基づき、施工歩掛りや日当り標準施工量と工事の施工数量等から施工日数等を算出し、標準的な工事期間を設定するものである。

したがって、詳細な工種の施工日数ではなく、主工種により工程表をまとめており、全体工程表の作成にあたっては、現地条件を踏まえ作成すること。

１）準備期間及び後片付け期間の設定

工程作成支援ツールにおいて設定する準備期間及び後片付け期間については、「工期設定ガイドライン（共通編）」によるものとする。

２）工種の設定

工事工程作成支援ツールでは、標準フォーマットとして主たる工種を設定している、設定している工種は次のとおり。

（１）新設舗装工事の場合

工種	作業種別	単位
仮設アスファルトプラント	設置・撤去	基
仮設ソイルプラント	設置・撤去	基
試験練り	アスファルト混合物・セメント混合物	配合
試験舗装	アスファルト混合物・セメント混合物	配合
用・排水溝	現場打ち水路・プレキャスト製品・ 円形水路（スリップフォーム）	m
管路工	ＶＥφ（ｎ）・ＰＳφ（ｎ）・ＣＰφ（ｎ）・ ＣＩＰφ	m
踏掛板工	－	m2
路盤準備工	－	m2
セメント安定処理路盤工	下層路盤・セメントコンクリート舗装路盤	m2
アスファルト混合物	加熱ｱｽﾌｧﾙﾄ安定処理路盤工・ ｱｽﾌｧﾙﾄｺﾝｸﾘｰﾄ基層工・ｱｽﾌｧﾙﾄｺﾝｸﾘｰﾄ中間層工・ ｱｽﾌｧﾙﾄｺﾝｸﾘｰﾄ表層工・ ｱｽﾌｧﾙﾄｺﾝｸﾘｰﾄ橋梁ﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ層工	t
監視員通路工	監視員通路・監査廊	m
連続鉄筋コンクリート舗装版	センサーライン設置 舗設作業	m m2
コンクリート舗装版	舗設作業	m2
床版防水工	グレードⅡ	m2
防護柵工　ガードレール	土中建込・岩盤削孔建込・コンクリート建込	m
コンクリート防護柵工	場所打ち（スリップフォーム）・ プレキャスト製	m
路面標示工	中央破線・外側線 ゼブラ等・矢印記号文字	m m2

（２）修繕舗装工事の場合

工種	作業種別	単位
試験練り	アスファルト混合物	配合
試験舗装	アスファルト混合物	配合
事前調査	コア採取ひび割れ調査	車線･km
切削オーバーレイ工	標準施工・標準以外の施工	m2
レベリング工	橋梁レベリング層工	t
残ｱｽﾌｧﾙﾄ合材等の取除き	―	m2
床版補修工	（注）見積により積算	m2
床版防水工（グレードⅠ）	―	m2
床版防水工（グレードⅡ）	床版防水工・下地処理工	m2
縁石工	Ｃｏ縁石撤去・Ａｓ縁石設置・Ｃｏ縁石設置	m
セメントミルク注入工	浸透作業	m2
路面標示工	中央破線・外側線 ゼブラ等・矢印記号文字	m m2

なお、工程作成支援ツールは上記の工種以外についても、項目を設定可能である。

新たな項目を設定する場合は、空白行に必要事項を記載することで、同様に利用することが出来る。

３）日当り標準施工量（施工能力）の設定

工程作成支援ツールにおける工種毎の日当り標準施工量は、各区分の値を選択又は入力することによって、自動的に算出される。

修繕舗装工事のレベリング工については、積算要領に基づき、施工条件に応じた施工能力を算出し、設定する必要がある。

標準として設定している工種以外の工種を新たに設定する場合は、「日当り標準施工量」を直接入力することで、同様に使用することができる。

４）パーティー数の設定

工程作成支援ツールではパーティー数を任意で設定することが可能である。

標準フォーマットでは施工業者へのヒアリング等により、標準的なパーティー数を設定している。（基本的に舗装工は１班で設定）

関連する工種の工事進捗速度を合わせる必要がある場合や、複数の班で施工することが想定される場合は、パーティー数を変更することができる。

５）工種毎の関連付け（パス）の設定

工程作成支援ツールでは工種毎の関連付け（パス）をツール利用者が設定することで、全体の工程が作成される。

標準フォーマットではあらかじめ工種毎のパスが設定されているが、工事毎に工種の有無や施工着手の順番が異なる場合など、工事によって施工順序が異なる為、パスについては必ず、工事毎にツール利用者が設定する必要がある。

なお、工種毎の施工順序については、ガイドライン（舗装編）の施工フローを参考に設定する。

６）工区の設定

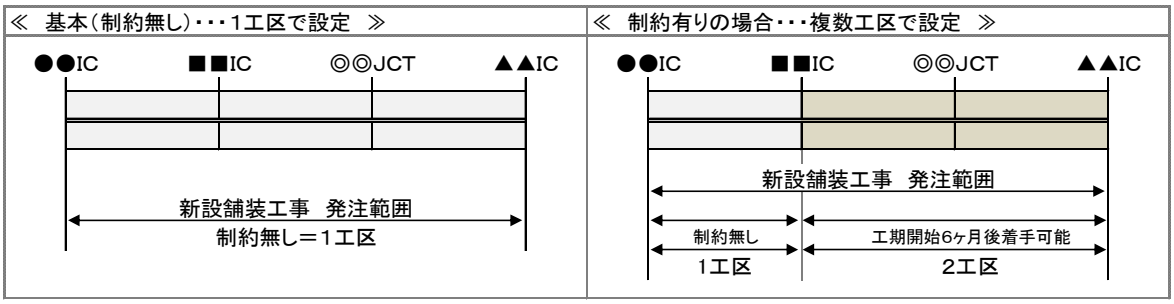
工程作成支援ツールでは複数の工区を設定して、工程を作成することができる。

標準フォーマットでは２工区まで設定されているが、工区一式をコピー＋行挿入することで、工区の設定を増やすことが可能である。

１工事における工区の設定方法については、次のとおりとする。

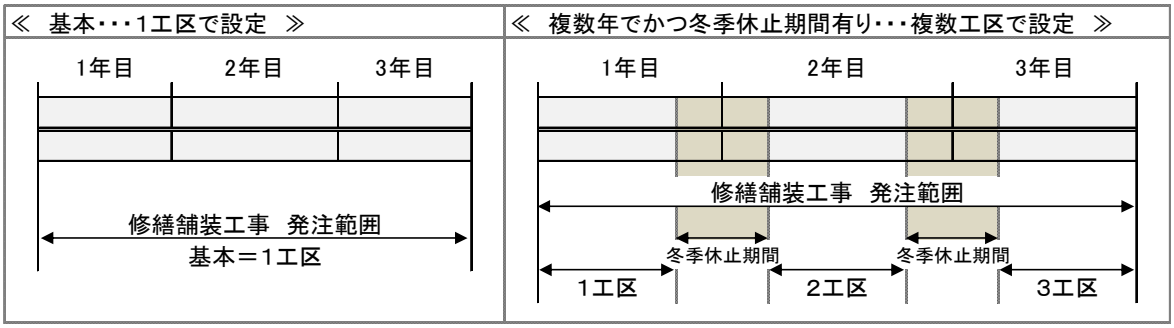
（１） 新設舗装工事の場合

１工事の工区設定は、特段の制約条件がなければ、基本的に１工事＝１工区の設定とする。なお、引き渡し時期の異なる工区（もしくは構造物）を含む場合は、引き渡し時期が同時期の範囲毎に１工区としても良い。



（２） 修繕舗装工事の場合

１工事の工区設定は、特段の制約条件がなければ、基本的に１工事＝１工区の設定とする。なお、複数年工事かつ、冬季休止期間を設定する工事の場合は、各年で実施する範囲毎に１工区としても良い。



工期設定ガイドライン（舗装編）

令和８年７月

発　行

西日本高速道路株式会社

無断転載複製を禁ず

©2005　West　Nippon　Expressway　Company　Limited